

I 本校の研究について

研 究 部

1 研究テーマ

『自立に向かう子どもたち』

— 人やものとかかわることを大切にして —

2 研究の経緯

(1) 研究テーマについて

本校では、昭和59年度以来「自己教育力」の育成を中核として研究を進めてきた。平成5年度から7年度までは、「豊かな感性を育む」を研究テーマとし、自己教育力の育成を子どもの豊かな気づきや感じ取りを育む支援に焦点をあてて、各教科・領域で、実践を重ねてきた。同時に、現実の子どもたちを見つめた時、学習を含めた子どものくらし全体に視野を広げることが必要であると考えた。

そこで、子どもたちの現在の課題・今後身につけてほしい資質や能力について検討し、整理し直した。その結果、本校のめざす子ども像を、「発達段階に応じて、他との関わりの中で、自ら考え、判断し、行動できる子ども」とした。そして、平成9年度から「自立に向かう子どもたち」を研究テーマとして実践に取り組んできた。この子ども像をめざしていくことによって、子どもたちが身につける力は、問題を発見する力や思考力などの問題解決能力、かかわりの中で自分に自信をもち自分らしさを追究していく力であると考えた。

(2) サブテーマ「人やものとかかわることを大切にして」(H12～)の設定

子どもたちの「自立」に向けて、平成9年度から3年間「自分で決める場を大切に」をサブテーマとして取り組んできた。

このサブテーマのもと、見通しをもち、自分で活動方法を考え出し、活動をふりかえり、新たな課題をもつという意識や態度が子どもたちに見られるようになってきた。自立に向けてさらに進むために、これまで自己決定の中で行われてきた人やものとかかわりを、より大切にしていきたいと考えた。

ものとかかわり合うことで、自分の五感を働かせ、楽しさや心地よさを味わったり、興味や関心をもったりすることができる。そして、これまでの自分の知識や経験からは考えることのできないものと出会ったとき、新たな問いをもつことにもなる。さらに、かかわったものを通して、その回りのものや出来事にも興味や関心を広げ、自分の課題設定や追究活動に生かしていくことができると考えたからである。

人とかかわり合うことで、自分だけでは気づかないことに目を向けたり、他者の考えを参考にしながら自分の考えを深めたり、修正したりしながら、自他ともに高まり合っていくことができる。

また、これまで自己決定によって芽生えてきた個人の意欲や関心、主体的に思考する態度や問題解決能力などを、より高めていくことにもなる。そして、その力が集団の中で生かされ認められることで、子どもは自分に自信をもち、他者のすばらしさを認め、それぞれが自分らしさを追究していくようになるであろう。

そこで、「人やものとかかわることを大切にして」を切り込み口とし、これまでの計画や実践を見直ししながら、研究を深めていくこととした。本校のめざす自立した子どもの姿は、

自ら考え、判断し、行動し、ふりかえることによって、自分らしさを追究していく子どもである。子どもたちが、自立に向かう学習活動で大切にしてきたことは、「自分なりに見通しをもち、自分の課題を追究し、ふりかえる」ことである。ここで、子どもたちが人やものとかかわることが何より大切であり、かかわりが全ての活動を広く豊かにしていく土台になると考えた。

3 これまでの取り組み

(1) 第1年次（平成12年度）

サブテーマ「人やものとかかわる」ということで目指す、子どもたちにつけていきたい能力や子どもの姿（態度）について、つぎのように整理し実践してきた。

表1 かかわりを土台とした東雲小学校でめざす子ども像 （H12）

	子 ども の 姿	能 力
見 通 し	自分から取り組もうとする態度	問題を見つける力 めあてをもつ力 計画を立てる力
追 究	自分から働きかけようとする態度 最後までやりとげようとする態度	方法を考える力 判断する力 行動する力 まとめる力
え ふ り り か	自分を見つめようとする態度 次へ生かそうとする態度	次へ生かす力 自分のよさに気づく力 新たなめあてを生み出す力
	↑ ↑	↑ ↑
か か わ り	相手（対象）を感じ取り受けとめようとする態度 理解しようとする態度 自分からかかわろうとする態度	人の話を聞く力 同じ所や違いに目を向ける力 比べたり深めたりする力 思いや考えを表現する力

かかわりに視点をあてた「自立に向かう子ども」の姿を表すと次のようになる。

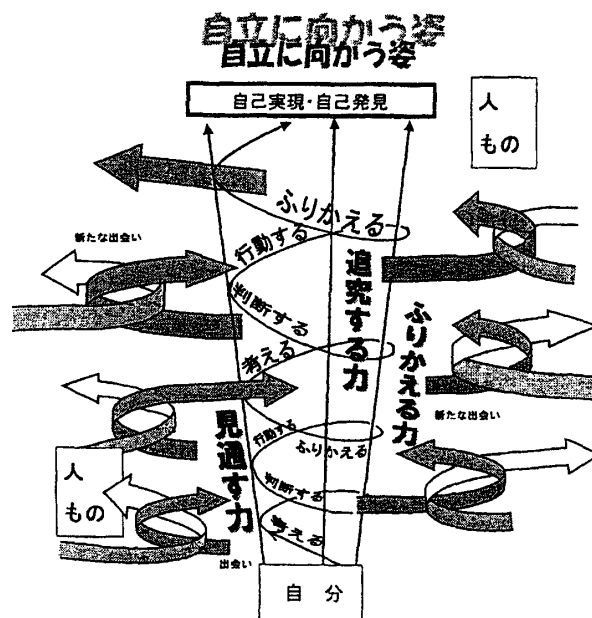


図1 かかわりに視点を当てた自立に向かう姿

(2) 第2年次（平成13年度）

1年次の課題をいかして、かかわりの広がりや深まりをどのように見とっていくか。かかわりのどの部分で子どもたちが変容したかを明らかにしていくかということを研究の中心に据えた。そこで、2年次は、表1をもとに、「見通し」「追究」「ふりかえり」の各段階で、子どもたちのどのような姿が見えたとき、子どもたちにどのような力がついたと考えられるのかを、より具体的に探るために観点を設定し見とった。

① 成果

- | | |
|---------|---|
| [見通し] | ・自分のやりたい活動を選択することができるようになった。
・既習の活動をもとに計画を立てることができるようになった。 |
| [追究] | ・情報を収集したり人とは違う工夫をして取り組んだりすることができるようになった。
・友達のよいところを取り入れて、自分の活動に生かすことができるようになった。
・自分のがんばりに目を向けることができるようになった。 |
| [ふりかえり] | ・自分の活動の善し悪しを課題に照らし合わせてふりかえることができるようになった。
・次の活動への方向性をもてるようになった。
・既習した活動を取り入れ工夫して次の活動へ生かす。 |
| [かかわり] | ・友達のよいところに気づいたり、自分と友達の考え方や取り組みの違いに気づいたりすることができるようになった。 |

② 課題

- | | |
|---------|---|
| [見通し] | ・異なるいくつかの対象を視点をもって比較する
・完成・ゴールのイメージをもつ |
| [追究] | ・物事を関連的にとらえ感じ取る
・課題解決のためにデータを資料として選ぶ
・データや考えを比較しまとめる
・対象の変化や課題でとらえたことを説明する |
| [ふりかえり] | ・カードやノートを整理して残す |
| [かかわり] | ・筋道を立てて話す
・適切な言葉づかいをする |

4 本年度（平成14年度）の取り組み

(1) 人やものとかかわることをたいせつにして 第3年次の取り組み

14年度は、2年次のかかわりのみとりの視点から得られた子どもたちの姿を、まず一年次に作成したかかわりによってめざす子ども像（表1）の見直しを行った。その結果を、表2のようにまとめた。

その結果から本年度の取り組みの重点を、どの場面で設定するのか、どういったかかわり方を見とるのかという計画表（かかわりの表）を作成した。この表により、かかわりの広がりや深まりを単元のどの段階に位置づけどういった支援を行っていくか、かかわりに関して具体的な観点を定め、どういった評価をしていくかということを明らかにしていくことにした。

表2 平成12年度のめざす子ども像をもとにした本年度の取り組み (H14)

	子どもの姿	つけていきたい能力	成 果	課 題	取り組みの重点
見 通 し	自分から取り 組もうとする	問題を見つける めあてをもつ 計画を立てる	○やりたい活動を選択 する ○既習の活動をもとに 計画を立てる	・異なるいくつかの対 象を視点をもって比 較する ・完成・ゴールのイ メージをもつ	比較する 完成ゴール のイメージ をもつ
追 究	自分から働き かけようとする 最後までやり とげようとする	方法を考える 判断する 行動する まとめる	○適切な情報を収集す る ○人と違う工夫をする ○友達のよさを取り入 れる ○工夫や自分のがんば りを書いたり言葉に したりする	・物事を関連的にとら え感じ取る ・完成・ゴールのイ メージを明確にして 活動する ・多くのデータから正 しいものが何かと考 える ・課題解決のために データを資料として 選ぶ ・気づきや発見を整理 し継続して記録する ・収集したデータを自 分の課題に沿ってま とめる ・データや考えを比較 しまとめる ・対象の変化や課題で とらえたことを説明 する	比較する 関連づける 整理する
ふ り か え り	自分をみつめ ようとする 次へ生かそう とする	次へ生かす 自分のよさに 気づく 新たなめあて を生み出す	○自分の活動のよい点 や改善点を課題に照 らしてふりかえる ○次の活動への方向性 をもつ ○既習した活動を取り 入れ工夫して次の活 動へ生かす	・カードやノートを整 理して残す	整理し残す
	↑ ↓	↑ ↓	↑ ↓	↑ ↓	↑ ↓
か か わ り	相手（対象） を感じ取り受 けとめようと する 理解しようと する 自分からわか ろうとする	人の話を聞く 同じ所や違い に目を向ける 比べたり深め たりする 思いや考えを 表現する	○友達のよさ、自分と 友達の考え方や取り 組みの違いに気づく ○感謝の気持ちを表現 する ○友だちのよいところ やなおしたらよいと ころをアドバイスす る ○相手に自分の考えを 伝える資料を作る ○効果的な発表の計画 を立てる ○自分と友だちの記録 を比べて違いに気づ く	・人へ伝えることがで きる声の大きさを考 える ・筋道を立てて話す ・豊富な語彙を用いた 表現をする ・様々な人へ適切な表 現を使って協力を依 頼する ・適切な言葉づかいを する	互いに相手 を意識して 表現する

(2) テーマの実現に向けて (本年度の取り組み)

テーマの実現に向けて本校の取り組みは、
「日々の暮らし」
「各教科」
「領域（特別活動・総合的な学習）」
など図2のように表すことができる。

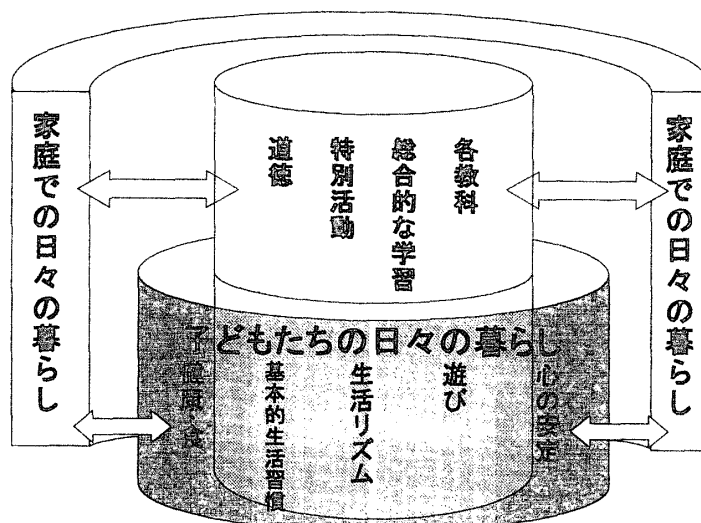


図2 東雲小学校の研究の取り組み（全体像）

① 子どもの日々の暮らし

子どもたちが自立に向かうためには、学習したことを生活の中に生かし、生活の中からも学習していくことが必要である。かかわりを意識し、よりよいかかわりを生み、かかわりを広げていくために、次のことに取り組む。

- 家庭との連携・・・学年・学級集会，教育相談，懇談
- ◎生活リズムの見直し・・・日課表
- ◎心の安定・健康・食・・・生活・心委員会，食についての研修会
- ◎遊びの創造・・・縦割り活動，遊びの掲示板
- 基本的生活習慣の確立・・・健康生活調べ

◎のものは、今年度より子どもの日々の暮らしについて、その重要性を見直しているものである。

② 教科・領域の授業

教科・領域においては、教科や単元、さらには学習場面によって「人やものとかかわること」はいろいろなかたちをとるものと思われる。いずれの場合も、かかわることによって、子どもたちは、自分で決めたことや自分の追究をより広く見つめ直し、自分自身をより深くふりかえる。そして、他とのよりよいかかわり合い方を模索しながら、共に高まっていくであろう。

本年度は、子どもの変容を具体的な視点で見取っていくかかわりの表を作成した。子どもたちが、学習の中でかかわりを通して伸ばす力はなにか。教師は子どもが学習のどの場面で伸びたのかを見取り、評価し、そのための支援のあり方はどうあるべきかを探っていくものにした。また、教科・領域でつきたい力（基礎・基本）は何かをおさえるために、それぞれの教科・領域で検討した。

時間割の作成に当たっては、今年度より次の考えに基づき、30・40分を基本とした授業時間を設定した。

- 子どもたちの生活リズムを整えるために通年で同じ時間割とする。
- 週あたりの授業実施回数を確保することにより、学習の機会を保障する。
- 授業実施回数を保障することにより、授業時数を確保する。

③ 特別活動

昨年度、子どもたちの生活リズムを大切に考えながら、教育課程全体を見直した。その際、特別活動をそのねらいと内容を基に、自治的活動と学校行事的活動の2つに大別した。自治的活動は、自主的自発的行動や集団としての連帯感などをねらいとし、学級・学校活動を基盤として、児童会活動・縦割り活動なども取り組んでいることとした。また、学校行事的活動については、各行事のねらいと内容を、総合的な学習のねらいや内容との重複を考えて見直し、編成した。

本年度は、ねらいと内容をもとに、ゆとりのある行事や学習になっているか、子どもたちが自分たちの力で活動を創り上げているかを見直し、今年の子どもたちに合った内容となるように実施している。

④ 総合的な学習

ア) 取り組みの経緯

本校の総合的な学習は、「自立に向かう子どもたち」という研究テーマに向けて研究をはじめた平成8年から、創設に向けて取り組みを始めた。子どもたちの姿から教科・領域の枠に限定されず、実感や達成感をもつことのできる体験や考え、判断し、行動する基礎となる体験が必要であると考えた。そして「身の回りの環境と主体的にかかわり、自分なりの課題をもち追究していくことで、自分自身を見つめ共にによりよく生きていこうとする子どもを育てる。」ことをねらいとした「総合的な学習」を創設した。

その時、重視したのが自然や人との一体感が味わえる体験、自分で立てた計画にそって学習を進める体験、自分の興味関心に基づいた活動、自分見つけに向かう活動、コンピュータの活用であった。そこから、「人間」「環境」「自分タイム」「コンピュータ活用」という領域が生まれ、ねらい、年間計画の作成等の研究、実践に取り組んできた。

これまで5年間4領域で実施してきたが、昨年度より「人間」「環境」の領域は人や自然とのかかわりの中で自分の存在を見直し、大切にし、将来を見通しながら生きていく力を身につけることができる領域として統合できるのではないかと見直しを進めてきた。そして本年度より、「ふれあいタイム」「自分タイム」の2領域に再編した。また、「コンピュータタイム」はコンピュータスキルの習得をめざすための時間とした。その上で各領域の基本的な考え方やねらいを検討した。そして、「見通しー追究ーふりかえり」の各段階で、具体的な観点に基づいた評価がなされるように、単式用、複式用、養護学級用のすべての学級を網羅した年間活動計画・評価規準を作成した。

また、実践と同時に、将来に向けて新たな構想の模索も始めている。

イ) 基本的な学習の流れ

総合的な学習においては、何よりも「直接体験」を重視してきた。体全体を通しての丸ごと体験は、実感、満足感、達成感、自分発見など、子どもたちが自立に向かっていくために大変重要なものを与えてくれる。それらは、子どもたちの人間形成にも深く影響を及ぼし、個性をも目覚

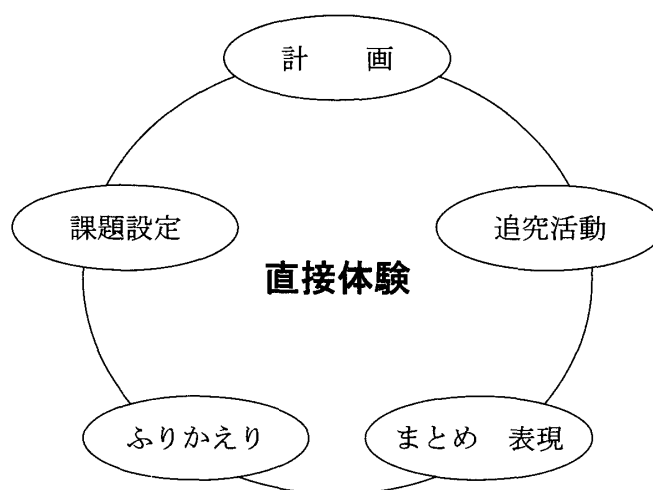


図3 基本的な学習の流れ

めさせてくれる。また、抽象的な思考を育む上での土台となると共に、考えたことの検証の場にもなる。そして、子どもたちが、課題設定から追究活動へと進むときも、方向性と共に意欲も喚起してくれる。そのため、本校では、体験を重視しながらも体験のみに終わることのないよう、体験をふりかえり、体験で得たものを焦点化し、追究課題へと実らせる過程を大切にしている。

本校の考える「直接体験」を中核とした、基本的な学習の流れは図3のようになる。

ウ) 宿泊学習

宿泊学習は、子どもの自立を図るために大切な学習であり、「自分たちで生活をつくること」をねらいとしている。そのため本校では、学校行事的活動と総合的な学習の中核に位置付け、ねらい、場所、時期、内容などについて検討を重ね、単式学級では3年生以上で1学年1宿泊として実施している。

また、複式学級及び養護学級では、単式学級と合同の宿泊学習に加えて宿泊学習を行っている。

エ) 教科・領域との関連

総合的な学習と教科、特別活動、道徳との内容の関連について整理し、本校の考える総合的な学習の位置づけを明らかにしてきた。

どの教科・領域においても「めざす子ども像」に変わりはない。研究テーマ「自立に向かう子どもたち」をめざして、教科、領域、総合的な学習のそれぞれの特性を生かし、相互関連を図りながら活動を展開していくという立場から話し合った。

《特別活動》

- ・集団活動
- ・集団としての自覚
- ・自主的、実践的態度

《道徳》

- ・道徳的心情
- ・道徳的实践力
- ・価値

《総合的な学習》

- ・かかわる
- ・自分で決める
- ・自分自身を高め、伸ばす、ふりかえる

子どもたちの実態に応じてそれぞれの活動が展開されること、結果ではなく過程を重視していくことなど大きな共通点もある。

本校の総合的な学習は、子どもたちにとって望ましいと思われる活動を仕組む上で、既存の教科や領域の枠を取り外して創り出したものである。子どもたちがより主体的に活動をしていくことができるように、実践を積み重ねながら、教科・領域との関連について内容やねらいから見直しを図っていく。

オ) 学習環境整備

総合的な学習が、子ども主体の活動になり、より子どもの思いに応えるものとなるよう、引き続き次の学習環境整備を行う。

- 人的環境整備
- 物的環境整備
- 場の整備

カ) 研究推進組織

取り組みを充実したものにするために、図4のような組織で研究を推進している。

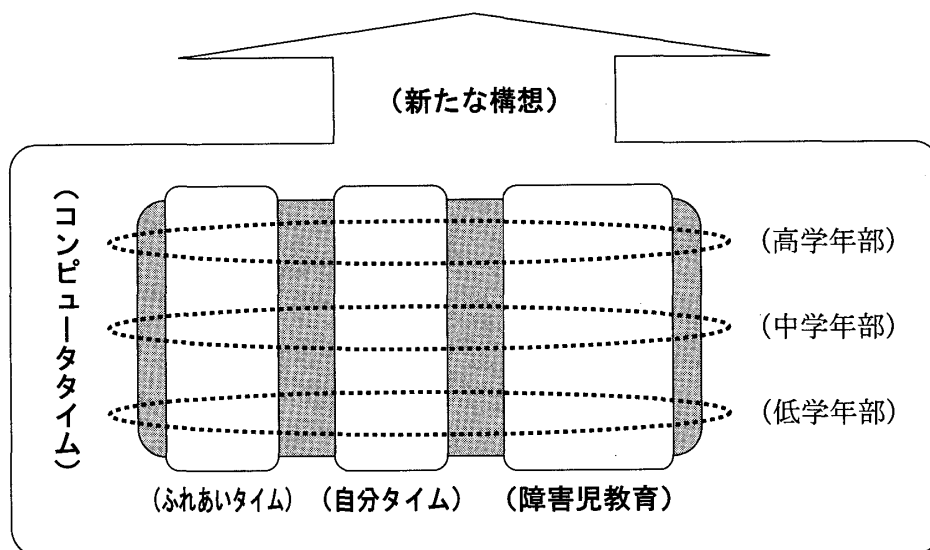


図4 研究推進組織

(3) 本年度の成果と課題

○かかわりの表は

子どもたちがどのように変容していくかを見取るための具体的な視点をもつために、かかわりの表を作成した（かかわりの支援と評価を具体的にもつために）

かかわりの表 例

第5学年「自分タイム」を広げよう深めよう自分をもつ										総合的な学習	
活動	自分の気づきや考えを大切にしながら取り組む	自分のことと比べてながら関心をもつ	活動に対して具体的なイメージをもつ	考えや思いを行動として表す	活動に対する成果や課題を見つめる	自分の姿を対面化し、認めたり高めたりする	人	もの	こと	評価	支援
課題決定	日常生活において興味・関心をもったものから自分で行いたい課題を決める。	◎	◎	◎		○	○	◎	◎	・自分タイムⅠでの活動よりかえり、これからの活動に対する意欲をもとうとしている。 ・日常生活の中から自分の興味・関心のあることを選び、課題を決めようとしている。	・自分タイムⅠでの課題一覧表や活動記録をもとに、複数あげた中から選ぶようにする。 ・課題、追究方法、完成ゴールのイメージをグループの中で発表し、本当にこの課題でよいのか練り上げる場を一人ひとりに保障する。
計画立案	与えられた時間枠の中で、課題達成のイメージをもとに、活動計画を立てる。		◎					◎	◎	・完成ゴールのイメージを具体的に描き、活動の見通しをもつて計画を立てようとしている。 ・活動場所や準備物など追究活動に対して具体的なイメージをもとうとしている。	・活動予定時間の枠を具体的に示し、計画を立てるようにする。その際、活動内容や時間の使い方、場所、準備物の具体的な視点を与える。
追究	◎自分の計画にそって準備・活動を進める。 ◎役頭して追究活動を楽しむ。 ◎活動のふりかえりから成果と課題を明らかにし、次時に生かす。	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	・自分の計画にそって、追究活動に没頭している。 ・活動よりかえりを通して、成果や課題を明確にし、計画を修正したりしようとしている。 ・これまでの活動を生かし、課題追究の方法をさらに広げようとしている。	・追究の時間があることを早めに知らせ、準備や場所の承諾を得るように働きかける。 ・一人一人の実態把握につとめ、活動の仕方やまとめ方について適宜声をかけていく。 ・ふりかえりでは、その時間の成果と課題、次の追究に向けての2つの観点で記述し、明確にもてるようにする。
中間ふりかえり	◎これまでの追究活動について、観点にそってふりかえり、成果や課題をまとめる。 ◎友だちの活動や思いにふれ、気づきやアドバイスを話し合う。	◎	◎		◎	○	◎	◎	◎	・完成ゴールのイメージを思い浮かべて、これまでの追究活動で自分が取り組んできたことをふりかえっている。 ・観点にそってこれまでの活動をふりかえっている。 ・友だちの活動や思いと比べ、気づきやアドバイス、自分に生かせる点などを考え、話し合いに参加している。	・全体の傾向が分かるように、ふりかえり観点を具体的に示し、「はい、いいえ」と理由を記述するワークシートを準備する。 ・個の活動のよさや問題点を全体のものにすするために、事例を取り上げ、話し合う場を設ける。
追究	◎自分の計画にそって準備・活動を進める。 ◎役頭して追究活動を楽しむ。 ◎活動のふりかえりから成果と課題を明らかにし、次時に生かす。	○		◎	◎	○	◎	◎	◎	・中間のふりかえりを生かして追究活動を進めている。 ・自分の計画にそって、追究活動に没頭している。 ・活動よりかえりを通して、成果や課題を明確にし、計画を修正したりしようとしている。 ・これまでの活動を生かし、課題追究の方法をさらに広げようとしている。	・追究の時間があることを早めに知らせ、準備や場所の承諾を得るように働きかける。 ・一人一人の実態把握につとめ、活動の仕方やまとめ方について適宜声をかけていく。 ・ふりかえりでは、その時間の成果と課題、次の追究に向けての2つの観点で記述し、明確にもてるようにする。
まとめ・表現	◎追究したことをまとめ、表現する。 ◎気づきや感想を発表し合う。	◎	◎		◎	○	◎	◎	◎	・伝えたいことを明確にし、これまでの活動についてまとめ、表現しようとしている。 ・自分の活動と比べることで、友だちのよさに気づき、自分の活動の中に取り入れようとしている。	・これまでの活動記録をていねいに見返し、何が一番言いたいのかを明確にするように働きかける。 ・写真、実物、エピソードなど活動の様子が具体的に示せるように声をかけていく。
ふりかえり	◎活動全体から、学んだこと、学び方、自分についてふりかえり。 ◎友の自分タイムについて考える。	○		○	◎	◎		◎	◎	・活動全体から学んだこと・学び方・自分についてふりかえりを通して、達成感や満足感をもてている。 ・次の自分タイムの活動への期待感をもとうとしている。	・自分の活動のよさに目を向けるように働きかける。分からない児童がいた場合、具体的な姿として気づいたことを教師が示すようにする。

成果

課題

- ・教師の授業設計には有効に働いた。
- ・子どもの姿を具体的評価をするには至らなかった。全体的なかかわりの場の設定を計画的に行うことはできたが、個の子どもの変容を見取るためには、異なる評価表（カード）との組み合わせを考える必要があった。
- ・かかわりの項目は、各教科共通のものと独自のものという整理が必要だった。
- ・評価への連携があいまいとなった。

○子どもの姿から (14年度重点項目を中心として)

本年度取り組んだ成果を中心に、子どもたちの姿がどのように変容したのかを、平成13年度に取り組んだ方法と同様の方法を用いて点検してみた。以下の表は平成13年度と平成14年度の子どもの姿である。

見 取 り の 観 点		13年度	14年度	13年度	14年度	13年度	14年度
見 通 し	◆異なるいくつかの対象を、視点を持って比較してみることができる。	△	○	○	△	△	×
	◆完成・ゴールのイメージを持てている。	△	△	○	△	△	○
追	◆物事を関連的にとらえて、感じ取ることができる。	△	×	○	△	○	△
	◆多くのデータから、正しいものが何かと考えることができる。	○	○	○	○	○	○
究	◆完成・ゴールのイメージを明確にして活動ができる。	○	○	○	○	○	○
	◆工夫や自分のがんばりを、はっきりと書いたり言葉にしたりすることができる。	○	○	○	○	○	○
	◆友達のよいところを取り入れて、自分の作品に生かすことができる。	○	○	○	○	○	○
か え り	◆カードやノートを整理して残せる。	△	×	○	○	○	○
か か わ り	□自分の考えをはっきりとすることができる。	△	△	○	○	○	○
	◆人へ伝えることができる声の大きさを考えることができ、はっきりと話せる。	△	△	△	△	△	△
	◆筋道を立てて話すことができる。	△	△	△	△	△	△
	◆豊富な語彙を用いた表現ができる。	△	△	△	△	△	△
	□様々な人へ、適切な表現を使って協力を依頼できる。	△	△	△	△	△	△
	□効果的なインタビューができる。	△	×	○	△	△	×
	◆適切な言葉づかいができる。	△	△	△	△	△	△
	□感謝の気持ちを表現する。	△	○	○	○	○	△
	□人の考えをよく聞くことができる。	△	△	△	○	○	○
	□多くの人と協力して活動に取り組むことができる。	△	○	○	○	○	○
	□相手の人の気持ちを考えることができる。	△	△	※	△	○	△
	□友達のいいところやさらによくしたほうがいいところを見つけてアドバイスできる。	△	○	○	○	○	○
	□相手に自分の考えを伝えることのできる資料を作ることができる。	△	○	○	○	○	○
	□効果的な発表の計画ができる。	△	△	○	×	○	○
	□効果的な発表形態を選ぶことができる。	△	△	△	×	○	○
	□見つけたことと考えたことが分けて考えられる。	△	○	○	△	○	○
	□友達の記録と自分の記録を比べて違いに気づく。	△	○	○	○	○	○
	□自分の学習のよしあしを友達を比べながら判断できる。	△	○	△	○	○	○

◆・・・平成14年度指導の重点項目

○・・・おおむね力がついたと判断できるもの

△・・・力が今ひとつ足りないもの ×・・・評定しにくい

この表をもとにして、かかわりについて次のようにまとめる。

- | | |
|----|--|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none">・課題解決のためにデータを資料として残すことができる。・カードやノートを整理して残すことができる。・友達の良さを見つけることはできる。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none">・データや考えを比較しまとめる。・対象の変化や課題でとらえたことを説明する。・人へ伝えることができる声の大きさを考える。・筋道を立てて話す。・豊富な語彙を用いた表現をする。・様々な人へ適切な表現を使って協力を依頼する。・適切な言葉づかいをする。・発達段階に応じた項目の整理。 |

5 サブテーマ「人やものとかかわることを大切に」をふりかえる

これまでの「自分で決める場を大切に」(H 9～H11)「人やものとかかわることを大切に」(H12～14)というサブテーマから生まれてきた成果と課題を大切に、子どもたちへの取り組みを進めていけば、「自立に向かう子どもたち」という姿に目指していけることはわかった。

本年度の取り組みを終え、次の点が課題として挙げられる。

- 各教科・領域で基礎・基本について十分に共通認識ができなかった。
- 「相手を意識し、表現する」ということには大きな変容が見られなかった。
- 子どもの姿の見とりの表(P. 10参考)とかかわりの表でどのように子どもを見とるか十分に検討をしないまま進めたため、子どもの変容について具体的評価をするには至らなかった。

これらの課題をふまえ、次年度以降、次に挙げる3点を研究の柱とする。

- ◎教科、領域の基礎・基本を明らかにする。
- ◎相手を意識して表現することに重点を置く。
- ◎一人一人の具体的な姿を見ていく。

一人一人の子どもが、確かな基礎・基本を身につけ、「見通しー追究ーふりかえり」の過程で質を高めながら、自立に向かうことができるように研究を進めていきたい。